

ウェディングテック・エンディングテックの動向

(要約) 本分析では、婚姻数の減少とコロナ禍の影響を受けるウェディング市場、および死亡数の増加に支えられるエンディング市場に着目し、IT やネットワーク技術を活用して実現される新しいビジネスの方法・仕組みを、それぞれ「ウェディングテック」「エンディングテック」と位置づけて分析を実施した。両領域とともに 2000 年前後のビジネスモデル特許ブームで出願件数が一時的に増加したものの、その後は低水準で推移していた。しかし、2015 年頃からウェディングテックでは特許出願数および企業の新規参入数が低調になりつつある一方、エンディングテックでは参入企業数および特許出願が増加していることが判明した。

1. はじめに

結婚や葬儀といったライフイベント関連市場は、人口構造の変化や価値観の変容といったマクロトレンドの影響を強く受ける分野である。

サービス産業動態統計ⁱ（図 1）によると、結婚式場業の取扱件数は 2020 年に急減し、売上高も大幅に落ち込んだことが分かる。これはコロナ禍による結婚式の実施が制限されたことが影響として大きいことが予測される。その後、2021 年以降は売上高がコロナ禍以前の水準に近づきつつある一方で、取扱件数は依然として回復しておらず、件数ベースでは縮小傾向が継続している可能性が高い。さらに、人口動態統計ⁱⁱ（図 2）を見ると、日本の婚姻率は 1971 年の 10.5% をピークに長期的な低下傾向にあり、2024 年には 4.0% まで下落していることが確認できる。

一方で、葬儀を中心とするエンディング領域は、ウェディング市場とは異なる様相を示している。

サービス産業動態統計ⁱ（図 3）によれば、葬祭業では 2020 年に一時的な売上高の落ち込みが見られたものの、その後は回復基調に転じ、足元ではコロナ禍以前と同水準まで戻りつつある。取扱件数についても増加基調を維持しており、全体として堅調な推移を示している。

また、人口動態統計ⁱⁱによると、日本の死亡数は 2008 年に出生数を上回って以降、増加傾向が続いている。こうした死亡者数の持続的な増加は、葬儀・供養・終活といったエンディング関連サービスに対する需要を、中長期的に下支えする構造的要因として位置づけられる。

ウェディング領域は婚姻率の低下を背景に取扱件数が伸び悩む一方、エンディング領域は死亡数の増加を背景に取扱件数が増加基調にあり、両市場は対照的な動きを示している。本稿では、これら二つの領域において IT やネットワーク技術を活用して実現される新しいビジネスの方法や仕組みを、それぞれウェディングテックおよびエンディングテックと位置づけ、両分野における特許出願動向を比較・整理する。

2. 調査条件

本稿では PatentSQUARE 収録の国内公報データを用い、ウェディング/エンディングテックに関する特許検索式を作成し、ヒットした集合ⁱⁱⁱを分析対象としている。

表 1 検索条件

項目	内容
使用データベース	PatentSQUARE
種別	特許（実案除く）
期間	2000 年 1 月 1 日以降に出願された公報

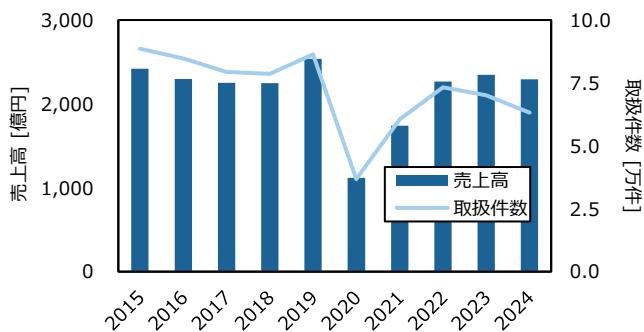


図 1 結婚式場業における売上高と取扱件数

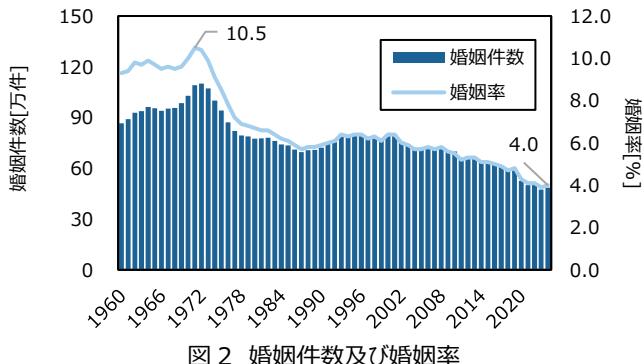


図 2 婚姻件数及び婚姻率

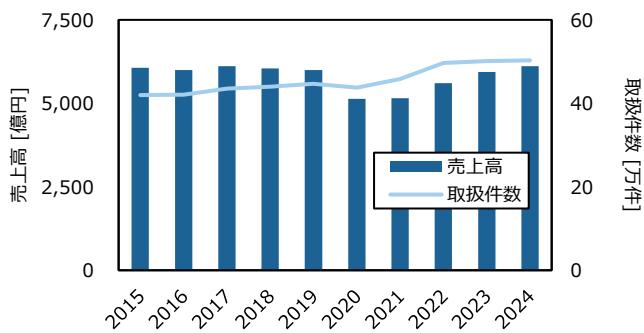


図 3 葬儀業における売上高と取扱件数

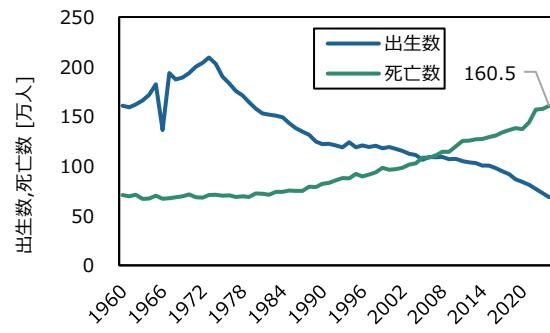


図 4 死亡数及び出生数の比較

ⁱ 経済産業省. 「調査の結果 | 特定サービス産業動態統計調査」.

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/tokusabido/result-2.html>

ⁱⁱ 厚生労働省. 「人口動態調査 結果の概要」. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>

1a.html

ⁱⁱⁱ 検索日：2026 年 1 月 23 日

3. 調査結果概要

調査母集団は、個人出願を除外した法人等による出願 539 件であり、このうちウェディングテック関連が 242 件、エンディングテック関連が 358 件であった^{iv}。出願件数の推移は^v、図 5 から分かるように、両領域とも 2000 年に出願件数が突出しており、全体では約 100 件に達していることが分かる。このピークは、2000 年前後に生じたビジネスモデル特許を中心とする出願ブームの影響^{vi}が大きかったと考えられる。2000 年前後の特需期を過ぎると、出願件数は急速に減少し、その後しばらくはウェディング・エンディングとも年間 10 件前後という低水準で推移していることが分かる。

表 2 ウェディング/エンディングテックの出願件数

	登録	審査 係属中	権利 消滅	合計
ウェディングテック	25	14	203	242
エンディングテック	53	32	273	358

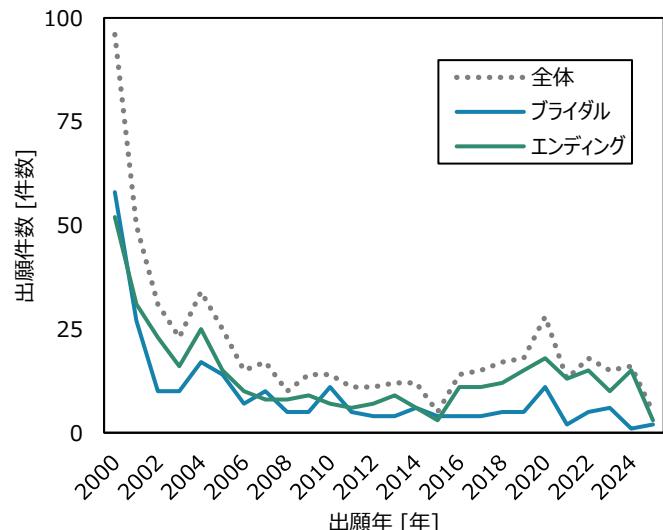


図 5 ウェディング/エンディングテックの出願件数推移

次に出願人の動向^{vii}についてみる。ウェディングテックの出願人を見ると、最も出願件数が多いのはセイコーホームズ社であった。ただし、同社によるウェディングテック関連の特許はいずれも既に権利が消滅しており、現時点の競争環境を直接左右するアクティブな権利としては位置づけにくい。一方、次点で出願件数が多い greeva 社や日本総合研究所社は、現在でも権利が存続している特許を複数保有しており、ウェディングテックにおける近年の技術動向を把握するうえで注目すべきプレーヤーといえる。

エンディングテックでは、出願件数が最も多い企業はソフトバンク社であった。ただし、これらは同社による一連の大量出願群の一部として位置づけられる案件が多く、エンディングテックに特化した継続的な技術開発を示しているというよりは、広範な ICT サービスの応用先の一つとして現れている可能性が高い^{viii}。これに対して、次点の LDT 社はエンディングテックの出願がまとまった件数で確認されており、同領域における専門的な取り組みを進めている企業として注目される。

表3 出願人順位（左表：ウェディングテック/右表：エンディングテック）

出願人	登録	審査 係属中	権利 消滅	合計
セイコーホームズ	0	0	9	9
greeva	5	0	0	5
日本総合研究所	3	0	1	4
ソフトバンクグループ	0	4	0	4
カシオ計算機	0	0	4	4
富士通 Group	0	0	4	4
日立製作所 Group	1	0	3	4
シャープ	0	0	3	3
ソニー Group	0	1	2	3
クレオ	0	0	3	3
ポリテック	0	0	3	3
富士フイルム Group	0	0	3	3

※出願件数が 2 件以下の企業は 178 社確認

出願人	登録	審査 係属中	権利 消滅	合計
ソフトバンクグループ	0	12	0	12
LDT	3	4	2	9
富士通 Group	0	0	7	7
日立製作所 Group	1	0	6	7
矢田石材店	2	1	1	4
ポリテック	0	0	4	4
アスカネット	1	1	2	4
ニチヨク	0	0	4	4
NTT Group	0	1	3	4
大日本印刷	2	0	1	3
創心社	0	0	3	3
日本ティーエムアイ	0	0	3	3
アットナビゲーション	0	0	3	3
クレオ	0	0	3	3
宮本工業所	2	0	1	3

※出願件数が 2 件以下の企業は 253 社確認

^{iv} ウェディングテック、エンディングテックの両方に該当する公報も含まれるため、両者の合計は全体の件数とは一致しない

^v 2024 年、2025 年は未公開分が含まれるため参考値

^{vi} 特許庁、「ビジネス関連発明の出願状況調査」、特許庁。

https://www.jpo.go.jp/system/patent/gaiyo/sesaku/biz_pat.html

^{vii} 出願人の名称は名義統制を行い、集計を実施している

^{viii} 大熊雄治、「ソフトバンク G の特許が 2 日で一挙に 3500 件超公開、発明の名称と出願人から浮かぶ焦点」『日経クロステック（xTECH）』2025 年 4 月 4 日。

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03093/040200003/>

最後に、5年ごとに集計した出願企業数の推移を確認する。図6は、ウェディングテックおよびエンディングテックの出願状況を5年単位（2000-2004年、2005-2009年…）で整理したものであり、縦軸は出願企業数、バブルの大きさは出願件数を示す。

まず初めに2000-2004年は、前述のビジネスモデル特許の過渡期にあたり、両領域とも出願企業数・出願件数が大きく、参入と出願が集中した時期であることが確認される。

その後、2005-2009年、2010-2014年と進むにつれて、両領域とも出願企業数・出願件数は縮小し、2010-2014年時点では両者の差はほとんど見られないことが確認される。

しかし、2015-2019年になると再び動きが分かれる。ウェディングテックでは出願企業数・出願件数ともに減少傾向にある一方、エンディングテックでは両指標が増加に転じていることが確認できる。

このような出願件数や出願企業数の違いは、図7が示すように、2015年頃からエンディングテックで新規参入企業^{ix}が増加した点が挙げられる。実際、2015-2019年および2020年以降の新規参入企業数は、ウェディングテックのおよそ2倍に近い水準で推移している。

以上のことから、ウェディングテックは新規参入の減少を背景に出願件数・出願企業数ともに縮小基調にある一方、エンディングテックは新規参入の増加を伴いながら成長局面にあることが示唆される。

4. まとめ

本稿では、人口動態や事業実績の変化といったマクロ環境を背景に、ウェディングテックおよびエンディングテックの市場動向と特許出願動向を比較・分析した。その結果、両領域は同じライイベント関連市場でありながら、事業環境および知財環境において対照的な特徴を有していることが明らかとなった。

ウェディングテックについては、市場規模の縮小に加え、特許出願件数および出願企業数がともに低水準で推移しており、長期的には出願活動が停滞している可能性が示唆される。成長余地が限定的な市場と捉えられがちである一方、知財戦略の観点では、ウェディングテック領域において権利が残存している特許を保有する企業が、エンディングテックと比べて相対的に少ない。そのため、事業・サービスの実施に際して確認すべき先行特許の範囲が限定され、侵害防止調査（FTO調査）に要する負荷を相対的に抑えられる可能性がある。また、新規参入企業が減少している局面では、将来の事業展開に必要となり得る技術・サービスをあらかじめ権利化しておくことで、限られた市場規模の中でも長期的に有効な特許ポートフォリオを構築できる余地が残されていると考える。

エンディングテックでは、死亡数の増加を背景とした安定的な需要に支えられ、近年は新規参入企業数および特許出願件数の双方が増加していることが予想される。既に一定規模の特許蓄積が進んでおり、今後は競争の一層の激化が見込まれる。特にウェディングテックと比べて新規参入企業が多い点は、競争激化を後押しする要因となり得る。知財面では、自社の技術やサービス設計が他社特許に抵触し、事業の円滑な遂行が妨げられるリスクが高い可能性がある。そのため、エンディングテックに参入する企業には、事業検討の初期段階から他社特許の調査や、より詳細な技術動向を踏まえた知財活動を並行して進めることが求められる。

以上を踏まえると、事業参入を予定している企業や既に事業参入をしている企業では、ウェディングテックにおいては「競合が少ない現状のうちに、どれだけ先行して自社の権利を確保できるか」が問われる。一方、エンディングテックにおいては「競合が多い環境下で、他社権利を慎重に回避しつつ、自社のポジションをいかに戦略的に築くか」が重要な論点となるだろう。今後も引き続き、両分野の技術動向に注目していきたい。

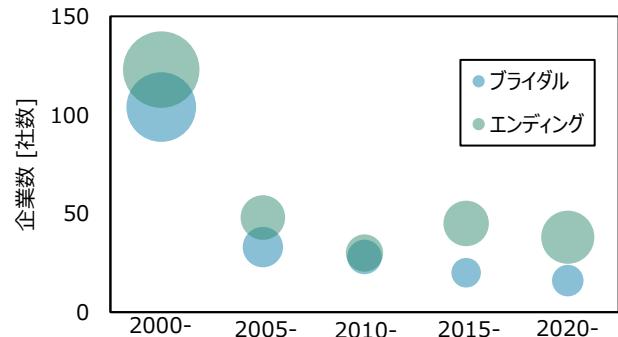


図6 ウェディング/エンディングテックの企業数の比較

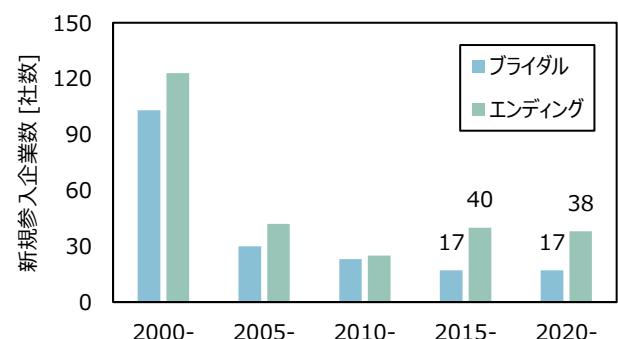


図7 ウェディング/エンディングテックの新規参入企業数の比較

NGB 株式会社 IP 総研

研究員 田所

2026年2月2日

^{ix} 本分析の期間内において初めて出願が確認された時期を新規参入時期と位置付けている。

付録：検索式（使用データベース：PatentSQUARE）

式 No.	ヒット件数	検索項目	条件式
S001	8469668	出願曰	20000101://2000年以降に出願された公報に限定
S002	16275885	四法	P//特許文献に限定
S003	915	Fターム	5L049CC14?//冠婚葬祭関連のFターム
S004	945	Fターム	5L050CC14?//冠婚葬祭関連のFターム
S005	1849	名称+要約+請求項	?結婚?+?婚約?+?婚姻?+?婚礼?+?再婚?+?晚婚?+?事実婚?+?婚活?+?入籍?+?ウェディング?+?披露宴?+?ブライダル?+?結納?+?引出物?+?引き出物?+?新郎?+?新婦?+?祝儀?//ウェディング関連のキーワード
S006	2482	発明の解決課題	?結婚?+?婚約?+?婚姻?+?婚礼?+?再婚?+?晚婚?+?事実婚?+?婚活?+?入籍?+?ウェディング?+?披露宴?+?ブライダル?+?結納?+?引出物?+?引き出物?+?新郎?+?新婦?+?祝儀?//ウェディング関連のキーワード
S007	1764	発明の効果	?結婚?+?婚約?+?婚姻?+?婚礼?+?再婚?+?晚婚?+?事実婚?+?婚活?+?入籍?+?ウェディング?+?披露宴?+?ブライダル?+?結納?+?引出物?+?引き出物?+?新郎?+?新婦?+?祝儀?//ウェディング関連のキーワード
S008	1668	発明の解決手段	?結婚?+?婚約?+?婚姻?+?婚礼?+?再婚?+?晚婚?+?事実婚?+?婚活?+?入籍?+?ウェディング?+?披露宴?+?ブライダル?+?結納?+?引出物?+?引き出物?+?新郎?+?新婦?+?祝儀?//ウェディング関連のキーワード
S009	4666	論理式	S005+S006+S007+S008
S010	5965	名称+要約+請求項	?葬式?+?葬儀?+?生前葬?+?告別式?+?弔辞?+?弔事?+?弔電?+?通夜?+?追悼?+?埋葬?+?墓?+?納骨?+?法要?+?法事?+?喪中?+?忌引?+?故人?+?香典?+?遺影?+?遺品?+?遺言?+?終活?//エンディング関連のキーワード
S011	5250	発明の解決課題	?葬式?+?葬儀?+?生前葬?+?告別式?+?弔辞?+?弔事?+?弔電?+?通夜?+?追悼?+?埋葬?+?墓?+?納骨?+?法要?+?法事?+?喪中?+?忌引?+?故人?+?香典?+?遺影?+?遺品?+?遺言?+?終活?//エンディング関連のキーワード
S012	4672	発明の効果	?葬式?+?葬儀?+?生前葬?+?告別式?+?弔辞?+?弔事?+?弔電?+?通夜?+?追悼?+?埋葬?+?墓?+?納骨?+?法要?+?法事?+?喪中?+?忌引?+?故人?+?香典?+?遺影?+?遺品?+?遺言?+?終活?//エンディング関連のキーワード
S013	4922	発明の解決手段	?葬式?+?葬儀?+?生前葬?+?告別式?+?弔辞?+?弔事?+?弔電?+?通夜?+?追悼?+?埋葬?+?墓?+?納骨?+?法要?+?法事?+?喪中?+?忌引?+?故人?+?香典?+?遺影?+?遺品?+?遺言?+?終活?//エンディング関連のキーワード
S014	9689	論理式	S010+S011+S012+S013
S015	706	論理式	S001*S002*(S003+S004)*(S009+S014)//★分析対象(個人出願を含む)